

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ

ーアフリカにおける国民皆“保健”実現のためにー

国際協力機構（JICA）は、6月1日14時より、横浜インターコンチネンタルホテルにて、「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）」をテーマにセミナーを開催しました。人々が必要な時に必要な保健サービスを費用の心配なく受けられる UHC のアフリカでの実現を目指し、JICA 小寺理事の司会のもと、議論が交わされました。



アフリカでは、各国及び開発援助機関の協力で、過去10年間に妊産婦や子供の死亡数が大幅に減少しました。その一方で、国内及び国家間の格差は拡大しています。貧しい世帯にとって医療費支払いの負担は重く、貧困の悪化に繋がります。UHCは基本的保健医療サービスへの平等なアクセスを保障し、医療費負担による貧困への転落から人々を守り「人間の安全保障」を実現する手段であり、国家の政治的安定や持続的経済発展の基礎となります。経済成長を遂げつつある今だからこそ、アフリカが早急に取り組むべき課題です。

会合では、冒頭、セネガルのコル・セック保健・社会大臣及びガーナのニョナター前保健サービス総裁から、自国における保健行政の地方分権化や新しいサービス提供モデルの推進、健康保険のカバー率向上等のUHC達成に向けた取り組みと課題が紹介されました。その後、ナイロビ大学のムワブ教授がアフリカのUHCを概観し、アフリカ開発銀行のツァオ保健課長から、財政基盤強化の重要性や説明責任の確保について、またJICAの杉下国際協力専門員から、保健行政官の質向上を通じた保健システムマネジメント強化の重要性について発表がありました。会場の参加者からは、UHCの対象範囲に予防サービスも含めるべきという意見や、保健サービスのカバー率向上と共に医療サービスの質を上げる必要があること、ドナーではなくアフリカ政府自身による予算措置の重要性が指摘されました。総括として登壇したチャン WHO 事務局長、オショティメイ UNFPA 事務局長、武見参議院議員は、UHC達成のための国家指導者の役割と、各国主体による取り組みを触媒となって側面支援する開発援助の役割を指摘。さらに皆保険制度の導入後50年以上にわたりUHCを維持している日本の経験の活用が強調されました。最後に登壇した小淵財務副大臣は、UHCをアフリカ諸国及び他の援助機関と協力して推進し、健康で安心して過ごせる豊かな社会づくりに貢献していきたいと決意を述べると共に、保健分野に円借款のより低い金利を適用し積極的に支援することを表明し、イベントが締めくくられました。

UHC 実現に向けたアフリカ諸国の強い覚悟のもと、JICA はアフリカ諸国やパートナーと手を携えてアフリカにおける UHC 実現を目指した協力を推進していきます。

【第5回アフリカ開発会議サイドイベント】

■本イベントの登壇者

【開会スピーチ】

- ・セネガル共和国 マリー・コル・セック保健・社会大臣
- ・ガーナ共和国 フランク・ニョナター前ガーナ保健サービス総裁

【プレゼンテーター】

- ・ゲルマノ・ムワブ・ナイロビ大学経済学部教授
- ・フェン・ツァオアフリカ開発銀行人間開発部保健課長
- ・杉下智彦 JICA 国際協力専門員

【総括】

- ・マーガレット・チャン世界保健機関（WHO）事務局長
- ・ババトウンデ・オショティメイン国連人口基金（UNFPA）事務局長
- ・武見敬三参議院議員

【閉会スピーチ】

- ・小淵優子財務副大臣

【司会】

- ・JICA 小寺清理事